

施策名【健康増進】

章	節	施策		主要施策	事務 事業 コード	事業 数	事務事業	課	係	管理 方法	備考
4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり	1.生涯にわたる健康づくりの推進	1.健康増進	(1)	地域における健康管理の担い手の育成	4111-1	1	保健対策事業	健康づくり推進課	健康増進係	通常	
					4111-2	2	臼田保健対策事業	臼田支所	健康づくり推進係	通常	
					4111-3	3	浅科保健対策事業	浅科支所	健康づくり推進係	通常	
					4111-4	4	望月保健対策事業	望月支所	健康づくり推進係	通常	
			(2)	健康づくり活動の推進	4112-1	5	森林セラピー事業	健康づくり推進課	保健医療政策係	通常	
					4112-2	6	保健衛生事務事業	健康づくり推進課	保健医療政策係	簡易	
					4112-3	7	保健センター管理運営事業	健康づくり推進課	保健予防係	通常	
					4112-4	8	ぴんころ運動推進事業	健康づくり推進課	健康増進係	通常	
					4112-5	9	口腔歯科保健センター運営事業	健康づくり推進課	口腔歯科保健係	通常	
					4112-6	10	サングリモ中込管理運営事業	健康づくり推進課	口腔歯科保健係	通常	
					4112-7	11	臼田健康教育事業	臼田支所	健康づくり推進係	通常	
					4112-8	12	臼田ぴんころ運動推進事業	臼田支所	健康づくり推進係	通常	
					4112-9	13	浅科健康教育事業	浅科支所	健康づくり推進係	通常	
					4112-10	14	浅科ぴんころ運動推進事業	浅科支所	健康づくり推進係	通常	
					4112-11	15	望月健康教育事業	望月支所	健康づくり推進係	通常	
					4112-12	16	望月ぴんころ運動推進事業	望月支所	健康づくり推進係	通常	
					4112-13	17	ヘルスアップ推進事業	健康づくり推進課	健康増進係	通常	
					4112-14	18	健康教育事業	健康づくり推進課	健康増進係	通常	
					4112-15	19	健康長寿ブランド化推進事業	健康づくり推進課	保健医療政策係	通常	
			(3)	食育の推進							

令和 6 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 5 年度実施事業)

事業名	保健対策事業			事務事業コード	4111-1
担 当	市民健康 部	健康づくり推進 課	健康増進 係	事業開始年度	平成 17 年度
事業の性質	義務的自治事務(不定型)		法定根拠		
管理方法	通常				
実施方法	☒ 市が直接実施 ☐ 委託または指定管理 ☒ 補助金・負担金 ☐ その他 (				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり
	節	1.生涯にわたる健康づくりの推進
	施策	1.健康増進
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 「保健補導員会」の活動が活発になり、市民の健康増進意識が高まっている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること 1 保健補導員会の事務局を担当する。 (保健補導員会:約30~50世帯に対し1名の割合で、区長により推薦された2年任期で市長が委嘱し、地域の健康づくりの担い手とし、地域の健康課題に取り組む活動を行う。保健補導員数692名) 2 理事会において、事業計画等を立て事業を行う。 3 任期1年目に新任研修を行う。2年目は保健補導員大会を開催し、活動発表等を行う。 4 14ブロックにおいて、年4回ブロックごとに健康づくりに関する研修を行う。 5 健康アンケート調査を実施し、佐久市の健康状況をまとめ市内の巡回展示及び市のHPで公表する。 6 研修成果を保健補導員が地区活動として、各地区単位で地区自主活動を実施し、市民に還元する。 7 特定健診受診率向上のため該当キャンペーンに協力する。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
コスト	事業費	2,827		4,228		4,663	
	人件費	2.20 人	15,070	2.00 人	14,540	2.30 人	16,721
	非常勤職員等	990 時間	1,288	1030 時間	1,355	1030 時間	1,564
	人件費合計	16,358		15,895		18,285	
	総事業費	19,185		20,123		22,948	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	222		370		434	
	一般財源	18,963		19,753		22,514	
	財源合計	19,185		20,123		22,948	

令和 5 年度 実施内容	・理事会 5回/年実施 ・ブロック研修会 14ブロックごとに3回/年実施 ・地区自主活動は、全238地区中、233地区で実施 ・ブロック別研修会 14ブロックごとに1回/年実施
-----------------	---

活動指標	単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
地区自主活動 実施区数	地区 数	実績	89	233	
		目標	238	238	238
	%	達成率	37.4	97.9	
成果指標	単位				
保健補導員会 ブロック研修会 への参加率	人	実績	1091	1262	
		目標	1392	1453	1453
	%	達成率	78.4	86.9	

達成状況	達成度	＜説明＞
	概ね達成	地区自主活動は、全地区での実施を呼びかけ、コロナ禍前と同様に、ほぼ全地区において実施することができた。 ブロック研修会は、年3回研修会を実施することができた。また、参加率も令和4年度から増加し、令和5年度は86.9%であった。しかし、目標値には達成しなかった。
官民連携の可能性	方法	＜説明＞
	市が実施する必要がある	市民への健康づくりを普及するためには、保健補導員の活動が重要となることから、その活動に対して市が支援をする必要がある。
事業の課題	・地区によっては、世帯数の減少や少子高齢化等により「保健補導員の後任者の選出が難しい」と区長から相談がある。 ・保健補導員が、研修会に参加しやすくなるような方法を検討する必要がある。 ・保健補導員の任期終了後も自主活動が継続できる支援体制を検討していく必要がある。 ・生活習慣病予防や子育て支援等、若い世代に健康増進の啓発を図るため、地区自主活動に対し、行動支援や技術支援を行う必要がある。	

所管課等としての評価

令和 6 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 5 年度実施事業)

事業名	臼田保健対策事業				事務事業コード	4111-2
担 当	総務 部	臼田支所 課	健康づくり推進 係	事業開始年度	平成 17 年度	
事業の性質	義務的自治事務(不定型)		法定根拠			
管理方法	通常					
実施方法	☒ 市が直接実施 ☐ 委託または指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他 ()					

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり
	節	1.生涯にわたる健康づくりの推進
	施策	1.健康増進
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 保健補導員の保健予防活動や健康相談により、市民の健康が増進されている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ・保健補導員の選出を各区長に依頼する。(2年毎) ・保健補導員の委嘱書交付式及び新任研修を行う。 ・保健補導員大会を開催する。(2年毎) ・健康づくりをテーマに、保健補導員会ブロック研修会を実施する。 ・保健補導員各種研修会(県や佐久地区研究大会等)に参加する。 ・保健補導員が行う「地区自主活動」の支援、及び健康相談等を行う。 ・地区に出向いた健康相談や、個人に対する訪問や来庁による相談事業を行う。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
コスト	事業費	0		0		0	
	人件費	0.33 人	2,261	0.33 人	2,399	0.33 人	2,399
	非常勤職員等	292 時間	388	180 時間	239	180 時間	239
	人件費合計	2,649		2,638		2,638	
	総事業費	2,649		2,638		2,638	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	0		0		0	
	一般財源	2,649		2,638		2,638	
	財源合計	2,649		2,638		2,638	

【参考】イベント等の出役に係る人件費

イベント等の名称			
実施年度		令和 4 年度	令和 5 年度
出役人数 (延べ人数)	1日	人	人
	半日	人	人
	2時間以下	人	人
出役に係る人件費		0 千円	0 千円

令和 5 年度 実施内容	・臼田地区におけるブロック研修会は例年通り3回実施することが出来た。 ・3回の合計参加率は71.2%であり昨年度より増加した。 ・保健補導員の地区自主活動のひとつとして、地域住民の健康の向上を目的に「ウォーキング」を推進している。令和5年度は1回(2地区合同)の開催であった。				
-----------------	--	--	--	--	--

活動指標	単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
地区自主活動でウォーキングの推進	地区数	実績	0	1	
		目標	1	1	1
	%	達成率	0	100	
成果指標	単位				
ブロック研修会参加率	参加率	実績	59.8	71.2	
		目標	60	60	60
	%	達成率	99.6	118	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	達成	ブロック別研修会は例年同様で3回実施することができ、参加率は昨年度より増加した。保健補導員の地区自主活動における「ウォーキングステーション」は1回開催された。実施に至らずとも、地区に「正しいウォーキングのちらし」等を回覧する地区もあった。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	市が積極的に関与することにより、保健補導員の活動が継続され、地域での健康意識をより一層高めることが出来る。
事業の課題	・ブロック研修会等への参加を促すために、保健補導員が参加しやすい体制をつくる必要がある。 ・保健補導員の任期終了後も、自主活動が継続できる支援体制を検討していく必要がある。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度	～	令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> ・研修会の内容については、保健補導員の意見や要望を聞き、より関心のあるテーマを取り入れていく。 ・研修会日程は保健補導員が参加しやすい日時を考慮する。 ・各種研修会への積極的な参加を促し、地域での健康づくりの推進やくとして活躍が出来るよう支援する。				

令和 6 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 5 年度実施事業)

事業名	浅科保健対策事業			事務事業コード	4111-3
担 当	総務 部	浅科支所 課	健康づくり推進 係	事業開始年度	平成 17 年度
事業の性質	義務的自治事務(不定型)		法定根拠	国民健康保険法第82条	
管理方法	通常			地方自治法第174条の規定による専門委員	
実施方法	☐ 市が直接実施 ☐ 委託または指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他 (				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり
	節	1.生涯にわたる健康づくりの推進
	施策	1.健康増進
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 佐久市健康づくり計画を基に、地域組織である保健補導員活動の支援や健康相談により、市民の健康が増進されている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること 1 保健補導員の選出に関する事務 任期は2年、各区長に選出を依頼する。途中欠員の場合は、後任は選出を依頼する。 2 保健補導員委嘱書交付及び新任研修(任期の初年度)の実施 3 保健補導員大会の開催 佐久市全体で講演会及び地区活動の発表等を任期の2年目に行う。 4 県、佐久地区等の保健補導員各種研修会への参加 5 保健補導員ブロック研修会を、各ブロックごとに年間計画に基づき実施する 6 年1回市民を対象とし「健康づくり佐久市民のつどい」を開催する。 7 健康相談事業 地区担当保健師が地区に出向き、健康相談(栄養相談含む)を実施する。 8 個別相談事業 個人に対し、訪問や来庁により心身に関する相談事業を実施する。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
コスト	事業費	0		0		0	
	人件費	0.27 人	1,850	0.27 人	1,963	0.27 人	1,963
	非常勤職員等	48 時間	64	48 時間	64	48 時間	64
	人件費合計	1,914		2,027		2,027	
	総事業費	1,914		2,027		2,027	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	0		0		0	
	一般財源	1,914		2,027		2,027	
	財源合計	1,914		2,027		2,027	

令和 5 年度 実施内容	ブロック研修会、健康アンケート調査、地区自主活動への取り組み。 委嘱書交付式及び第1回ブロック研修会を5月に実施(浅科公民館)、第2回ブロック研修会を7月に実施(総合体育館)、第3回ブロック研修会を11月に実施(浅科公民館) ブロック別研修会を10月に実施(浅科公民館) 高血圧についての実態調査のため、20歳代～70歳代までの佐久市民男女100人ずつ(計1,200人)を対象に住民アンケートを実施した。(令和5年7月18日～8月10日)回答率46.4% 地区自主活動も全9地区で実施した。(4月・7月御牧原地区、10月御馬寄地区、11月塩名田・上原・中原・下原・矢嶋地区、12月駒寄地区、令和6年1月八幡地区)				
-----------------	--	--	--	--	--

活動指標	単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
保健補導員 ブロック研修会	回	実績	3	3	
		目標	3	3	3
	%	達成率	100	100	
成果指標	単位				
保健補導員 ブロック研修会 参加率	%	実績	42.6	51.2	
		目標	50	50	50
	%	達成率	85.2	102.4	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	保健補導員ブロック研修会等では、保健補導員に健康の保持増進について、学習する機会を提供し、市民の健康づくりの担い手としての意識の向上を図った。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	市民が安心して健康が保持増進できる暮らしができるため、市の関与の必要性は高い。
事業の課題	保健補導員が市民へ健康づくりを推進し普及するためには、研修会や会議等に積極的に参加し、活動内容を十分に理解し、健康に関する学びを深めることが必要である。 また、参加を促すためには、研修会の内容、開催時期等について精査することが必要である。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度	～	令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> 保健補導員会の各種研修会への積極的な参加を促し、地域での健康づくりの推進役として活躍が出来るよう支援する。				

令和 6 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 5 年度実施事業)

事業名	望月保健対策事業			事務事業コード	4111-4
担 当	総務 部	望月支所	健康づくり推進 係	事業開始年度	平成 17 年度
事業の性質	義務的自治事務(不定型)		法定根拠	国民健康保険法第82条	
管理方法	通常			地方自治法第174条の規定による専門委員	
実施方法	☒ 市が直接実施 ☐ 委託または指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり
	節	1.生涯にわたる健康づくりの推進
	施策	1.健康増進
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 佐久市健康づくり計画とともに、地域組織である保健補導員活動の支援や、健康相談により市民の健康が増進されている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ・保健補導員の委嘱書交付及び新任研修(2年間任期の初年度に1回)を行う。 ・保健補導員大会(2年に1回佐久市全体で、任期2年目で開催)を行う。 ・保健補導員各種研修会(市全体で県・地区等研修)に参加する。 ・保健補導員会ブロック研修会を年間計画に基づいて実施する。 ・保健補導員が各地区で行う支援及び健康相談に関する報告等の事務を行う。 ・保健補導員の選出(2年に1回各区長に依頼)に関する業務を行う。 ・健康相談事業として、地区担当保健師が、各地区に出向いて健康相談等を実施する。 ・個別相談事業(個人に対して、訪問または来庁で)実施する。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
コスト	事業費	0		0		0	
	人件費						
	常勤職員	0.34 人	2,329	0.34 人	2,472	0.34 人	2,472
	非常勤職員等	200 時間	266	280 時間	372	280 時間	372
	人件費合計	2,595		2,844		2,844	
	総事業費	2,595		2,844		2,844	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	0		0		0	
	一般財源	2,595		2,844		2,844	
	財源合計	2,595		2,844		2,844	

令和 5 年度 実施内容	・感染症予防に十分留意しながら、通常通り(コロナ前と同様に)ブロック研修会、地区自主活動を行った。
-----------------	---

活動指標	単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
補導員ブロック研修会	回	実績	4	4	
		目標	4	4	4
	%	達成率	100	100	
成果指標	単位				
補導員ブロック研修会 参加率	%	実績	48	53.3	
		目標	60	60	60
	%	達成率	80	88.8	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	・昨年度までは、新型コロナウイルス感染症の予防のため、活動を一部制限して行っていたが、今年度からは感染症対策を十分に行いコロナ前と同様に活動を行った。 年間日程等を早く提示することで、参加者率の増加を目指した。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	・市が積極的に関与することにより、保健補導員の活動が継続され、地域での健康意識をより一層高めることができる。
事業の課題	・保健補導員自身がブロック研修会に参加しやすい体制をつくる必要がある。 ・保健補導員の任期終了後も自主活動が継続できる支援体制を検討していく必要がある。 ・保健補導員だよりや動画などを活用し、健康に関する知識の普及・啓発を継続する。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ~ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> ・保健補導員会の研修会の内容について保健補導員から意見・要望を聞き保健補導員が研修に参加しやすいように研修会の内容開催日時など検討していく。 ・保健補導員会の各種研修会への積極的な参加を促し、地域での健康づくりの推進役として活躍が出来るよう支援する。		

令和 6 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 5 年度実施事業)

事業名	森林セラピー事業			事務事業コード	4112-1
担 当	市民健康 部	健康づくり推進 課	保健医療政策 係	事業開始年度	平成 17 年度
事業の性質	任意の自治事務(不定型)		法定根拠		
管理方法	通常				
実施方法	☒ 市が直接実施 ☐ 委託または指定管理 ☒ 補助金・負担金 ☐ その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり
	節	1.生涯にわたる健康づくりの推進
	施策	1.健康増進
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 森林セラピーが市民の健康増進に役立っている。さらに、県内外の観光客が佐久市で森林セラピーを利用することにより、利用者の健康増進、関係人口、交流人口の創出による地域の活性化が図られている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ・森林セラピーのツアー計画や森の案内人のガイド技術向上のための研修会等は「佐久市森林セラピー推進協議会」で行う。(事務局:健康づくり推進課) ・様々な健康増進プログラム等とセットにした「市民向けの森林セラピーツアー」を実施する。 ・利用者の希望のプログラムに応じた「団体向けの森林セラピーツアー」を実施する。 ・セラピー基地2か所(平尾の森・春日の森)のウッドチップ敷、下草刈、階段補修などのロードの維持管理、環境整備を行う。 ・森林セラピーについて、ホームページや広報佐久、FMさくいだいら、新聞広告等で広報活動を行う。また、ガイドマップを周辺観光施設などへ配布する。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
コスト	事業費	7,740		622		1,372	
	人件費	0.70 人		0.70 人		0.70 人	
	非常勤職員等	0 時間		0 時間		0 時間	
	人件費合計	4,795		5,089		5,089	
	総事業費	12,535		5,711		6,461	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	596		407		1,102	
	一般財源	11,939		5,304		5,359	
	財源合計	12,535		5,711		6,461	

令和 5 年度 実施内容	・新型コロナウイルス感染症が5月に5類へ移行したことにより、15名程度による森林セラピー体験ツアーを開催。 ・新規メニュー(プログラム)の追加・・・地元店舗の協力によるセラピー用弁当
-----------------	--

活動指標	単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
市民向け体験ツアーの実施	回	実績	9	8	
		目標	9	9	9
	%	達成率	100	89	
成果指標	単位				
ガイド付き森林セラピー体験者数	人	実績	164	198	
		目標	100	180	180
	%	達成率	164	110	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	・新型コロナウイルス感染症が5月に5類へ移行したことにより、15名程度による森林セラピー体験ツアーの実施であった。 (台風による中止1回)
官民連携の可能性	方法	<説明>
	民間による実施が可能	セラピー体験ツアーは民間のプログラムを実施しており、民間による実施は可能である。ただし、施設の維持管理、組織体制や収益性などの課題も多く、民間へ全て移行することは困難なことから引き続き市が関与し、官民連携で進める必要がある。
事業の課題	・案内人の運営体制について、登録者数は32名いるが、案内人の活動をしている人数は半数にも満たないため大勢が参加する体制づくりが必要である。 ・春日の森について、令和5年度は一部が伐採、また令和6年度には一部間伐が予定されており、森の状況を鑑み、今後のセラピーの在り方を検討する必要がある。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

[illegible]

令和 6 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 5 年度実施事業)

事業名	保健衛生事務事業				事務事業コード	4112-2
担 当	市民健康 部	健康づくり推進 課	保健医療政策 係	事業開始年度	平成 17 年度	
事業の性質	任意の自治事務(定型)		法定根拠			
管理方法	簡易					
実施方法	☒ 市が直接実施 ☐ 委託または指定管理 ☒ 補助金・負担金 ☐ その他 (					

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり
	節	1.生涯にわたる健康づくりの推進
	施策	1.健康増進
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 保健医療関係団体や地区組織の事業に対し支援することで、市民が自主的に健康の保持増進に努め、健康的な生活を送っている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ○健康推進のための負担金、交付金等の支援 ・保健補導員会活動費交付金 佐久市保健補導員会活動費交付金要綱に基づき、保健補導員会が行う地域住民の健康増進を図ることを目的として、活動する保健補導員会に交付金を支払う。 (交付年度における保健補導員数に100円を乗じて得た額) ・がん患者アピアランスケア助成金 (R5年度より新規) 佐久市がん患者へのアピアランスケア助成金交付要綱に基づき、がん患者の就労や社会参加の促進等、療養生活の質の維持向上のため、がん治療に伴う医療用補整具を購入した者に対し助成金を交付する。 (令和5年4月1日以降に購入した、助成対象補整具(補整具ごとに区分有・助成回数制限有)の購入費とし、助成対象経費に1/2を乗じて得た額(1,000円未満切捨て)とし、上限2万円を限度。) ・佐久献血推進協議会負担金(市町村分) ○第3次佐久市健康づくり21計画策定に係る市民アンケート調査実施	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
コスト	事業費	15,956		6,899		11,158	
	人件費	0.80 人	5,480	0.80 人	5,816	0.80 人	5,816
	非常勤職員等	3140 時間	4,587	0 時間	0	0 時間	0
	人件費合計	10,067		5,816		5,816	
	総事業費	26,023		12,715		16,974	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	14,511		384		827	
	一般財源	11,512		12,331		16,147	
	財源合計	26,023		12,715		16,974	

令和 6 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 5 年度実施事業)

事業名	保健センター管理運営事業			事務事業コード	4112-3
担 当	市民健康 部	健康づくり推進 課	保健予防 係	事業開始年度	平成 17 年度
事業の性質	任意の自治事務(不定型)		法定根拠	地域保健法	
管理方法	通常				
実施方法	☒ 市が直接実施 ☒ 委託または指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他 (				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり
	節	1.生涯にわたる健康づくりの推進
	施策	1.健康増進
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 市民が保健センターを利用し、市が行う各種健診、教室、相談、研修会、講習会、会議等に参加することにより、健康の保持及び増進ができる。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ・健康の保持及び増進並びに保健衛生の向上に資する総合的なサービスの拠点場所であることから、利用者が安全で快適に施設の利用ができるよう、保健センターの使用の許可に関する業務並びに施設の維持管理業務を行う。 ・佐久市保健センター:市が直営で施設の維持管理を実施 ・浅科保健センター:指定管理制度を活用し、佐久市社会福祉協議会浅科支所で施設の維持管理を実施(保健センターの利用概要) ①母子保健事業(乳幼児健診、離乳食教室、すこやか相談、育児教室等) ②予防接種事業(申請受付、予防票発行、相談等) ③成人保健事業(各種がん検診、健康診査、保健指導等) ④精神保健事業(心の相談、デイケア、家族会等) ⑤高齢者介護予防事業(介護予防教室) ⑥地区組織等各種団体による研修会、講習会、関係機関との会議等 ※浅科保健センターでは、社会福祉協議会の地域福祉活動のノウハウを生かした自主事業を実施(安心コール、シルバークッキングスクール、お元気レター、サロン世話人講習会等)	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算			令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
コスト	事業費		7,665		7,518		6,642	
	人件費	常勤職員	0.55 人	3,768	0.80 人	5,816	0.80 人	5,816
		非常勤職員等	434 時間	364	431 時間	428	431 時間	428
		人件費合計	4,132		6,244		6,244	
	総事業費		11,797		13,762		12,886	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)		161		161		200	
	一般財源		11,636		13,601		12,686	
	財源合計		11,797		13,762		12,886	

令和 5 年度 実施内容	・保健センターの維持管理 ・各種保健事業等に関わる貸出事務（乳幼児健診・教室・各種健診・地区組織活動等） 稼働日数 265日（平日 244日 ・休日 21日） 貸出回数 1,504回 利用者数 18,460人
-----------------	--

活動指標	単位		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
保健事業への貸し出し数	回	実績	1279	1504	
		目標	1600	1600	1600
	%	達成率	79.9	94	
成果指標	単位				
保健センター内での事故件数、及び利用者からの苦情件数	件	実績	0	0	
		目標	0	0	0
	%	達成率	100	100	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	保健センターの稼働日数・貸出回数は新型コロナウイルス感染症の影響で会議等を中止していたR2・3年度と比べ回復傾向にある。 建築後30年経過し、計画的に改修工事を行い、施設整備に努めている。 計画された各種保健事業は予定どおり実施でき、事故・苦情等もなかった。 浅科保健センターでは、地域保健福祉事業を推進している団体(社協)としての特性を生かした自主事業を実施するなど、有効的な施設活用ができた。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	保健センターは地域保健法により設置が定められ、市民に対し、健康相談、保健指導及び健康診査、その他地域保健に関し必要な事業を行うことを目的としている施設であるため。
事業の課題	・保健センターの利用者は、乳幼児から高齢者まで幅広く、利用件数も多い。しかしながら、主要事業である母子保健事業が令和6年度末に開所予定の子育て支援施設へ移行予定のため、施設利用の減少が見込まれることから施設のあり方等を見直す必要がある。 ・浅科保健センターは指定管理者である社会福祉協議会の特性を生かした施設利用を、より一層進めていく必要がある。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ~ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> ・佐久市保健センターは現状のまま市の直営とし、必要に応じて修繕、改修を実施し、安全で利用しやすい施設環境に努めていく一方、主要事業の移行にあわせ施設の在り方等を見直していく。 ・浅科保健センターは指定管理者制度を活用し管理していく。 （指定管理期間 令和5年度～令和9年度） 指定管理者である社会福祉協議会の特性を生かした自主事業の推進や隣接する介護保険施設、障がい者支援施設等と連携を取りながら、より一層有効的な施設活用について検討していく。 ・関係部署との調整を図りながら、保健センターが効果的・効率的に使用できるよう、貸出事務を進める。		

令和 6 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 5 年度実施事業)

事業名	ぴんころ運動推進事業			事務事業コード	4112-4
担 当	市民健康 部	健康づくり推進 課	健康増進 係	事業開始年度	平成 19 年度
事業の性質	任意の自治事務(不定型)		法定根拠	健康増進法・老人保健法	
管理方法	通常			高齢者の医療確保に関する法律	
実施方法	☒ 市が直接実施 ☒ 委託または指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他 (				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり
	節	1.生涯にわたる健康づくりの推進
	施策	1.健康増進
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 市民が正しい食生活と適正な運動習慣を身につけ、健康でいきいきと暮らしている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること 1 ピン・ピン講座開催(健康講話/健康測定/健康及び栄養相談/運動の推進/ぴんころ食紹介・試食) 2 ぴんころステーションを市内各地区で実施(栄養講話/健康及び栄養相談/健康計測/ぴんころ食紹介・試食) 3 ぴんころ食の普及(ぴんころ食レシピの配布、食生活改善推進協議会に委託し普及) 4 食育の推進(食育教室の実施、食育応援隊の養成及び食育活動) ※R4年度から国保医療課「高齢者と介護予防の一体的事業」へ予算組替えのため、按分により算出	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
コスト	事業費	272		378		507	
	人件費	0.85 人	5,823	0.80 人	5,816	1.70 人	12,359
	非常勤職員等	148 時間	193	106 時間	140	308 時間	424
	人件費合計	6,016		5,956		12,783	
	総事業費	6,288		6,334		13,290	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	112		0		0	
	一般財源	6,176		6,334		13,290	
	財源合計	6,288		6,334		13,290	

令和 5 年度 実施内容	・ピン・ピン講座を年4回開催(125人参加) ・ぴんころステーション・ぴんころ食普及を158会場で開催(5179人参加) ・食育推進関連事業(おやこの食育教室、足育×食育、さくさく食育応援隊活動等)は、27会場で実施(1078人参加) ・ぴんころ食普及は食生活改善推進協議会に委託し、46回実施(777人参加)
-----------------	--

活動指標	単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
ピン・ピン講座開催数	回	実績	4	4	
		目標	4	4	4
	%	達成率	100	100	
成果指標	単位				
ピン・ピン講座参加者数	人	実績	142	125	
		目標	200	120	120
	%	達成率	71	104	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	達成	ピン・ピン講座は、年間4回中2回、ウォーキング普及の一環として、「インターバル速歩」を実施。話題性のある内容であったため、定員を上回る申込者があった。 新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことにより、地域活動が活発になり、ぴんころステーションや食育推進等も実績が増加した。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	市が事務局になり、関係団体との連携を図り事業を推進しているため、事業自体は市が実施することが望ましい。健康測定や食育関連など、内容により一部官民連携で実施している。
事業の課題	講座や教室の参加者は、健康意識の高い方が中心であるため、健康への無関心層へのアプローチも効果的に行い、生活習慣の改善のきっかけ作りを行う必要がある。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ~ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> 今後も、「ピン・ピン講座」「ぴんころステーション」「ぴんころ食の普及」「食育推進」の4本柱で事業展開していく。なお、今年度より、ピン・ピン講座の中にウォーキング普及の内容も盛り込み、保健指導員会等と連携しながら進めていく。 また、ホームページ等を利用し幅広い世代に周知を行うとともに、市内飲食店でぴんころ食提供店を増やすなど、ぴんころ食普及にも努める。 更に、幼少期から食に関心を持てるよう、各種教室を充実させ、大学等でもぴんぴんキラリ食の普及を図るなど、官民連携も活用しながら、幅広い世代へアプローチできるよう事業内容を検討し、実施する。		

令和 6 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 5 年度実施事業)

事業名	口腔歯科保健センター運営事業			事務事業コード	4112-5
担 当	市民健康 部	健康づくり推進 課	口腔歯科保健 係	事業開始年度	平成 20 年度
事業の性質	義務的自治事務(不定型)	法定根拠	長野県歯科口腔保健推進条例		
管理方法	通常		歯科口腔保健の推進に関する法律		
実施方法	☒ 市が直接実施 ☐ 委託または指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他 (				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり
	節	1.生涯にわたる健康づくりの推進
	施策	1.健康増進
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 市民の口腔内がいつでも清潔・健康な状態に保たれていることで、おいしく食事をし、会話を楽しむことができる。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること 事業対象者 ・妊娠期・乳幼児期から高齢期まで、すべての年代 実施事業 ・2歳児歯つぴ一教室・妊婦歯科健診・お口の相談日・歯周病(義歯)検診・保育園、幼稚園の年長児及び小中学校のフッ素洗口・口腔衛生指導など、むし歯予防や口腔機能の向上を図るための事業を実施する。 ・日曜日・祝日・年末年始における市民の救急歯科医療の確保と提供のため、佐久歯科医師会が運営する「休日救急歯科診療所」について、運営費補助金を佐久歯科医師会へ交付する。 (開設日数・時間 : 年間74日 診療時間午前9時から正午と、午後1時から3時の間) ・事業の周知方法 広報紙・HPの活用やラインを活用し事業の周知を図る。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
コスト	事業費	11,989		12,145		15,985	
	人件費	0.94 人		0.94 人		0.94 人	
	非常勤職員等	3498 時間		4664 時間		4664 時間	
	人件費合計	13,569		16,280		16,814	
	総事業費	25,558		28,425		32,799	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	807		3,336		1,698	
	一般財源	24,751		25,089		31,101	
	財源合計	25,558		28,425		32,799	

令和 5 年度 実施内容	2歳2か月・2歳3か月の幼児とその保護者を対象とした「歯っぴー教室」、35歳以上を対象とした「歯周病（義歯）検診」、「お口の相談日」、保育園、幼稚園の年長児及び小中学校のフッ素洗口・口腔衛生指導、講話など、むし歯予防や口腔機能の向上を図るための事業を実施した。 妊婦を対象とした妊婦歯科健診を、一般社団法人佐久歯科医師会と北佐久歯科医師会に委託して実施。また、日曜日・祝日・年末年に開設している「休日救急歯科診療所」については、診療所を運営する一般社団法人佐久歯科医師会に運営費補助金を交付した。
-----------------	---

活動指標	単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
歯周病（義歯）検診 開催数		実績	32	30	
		目標	33	30	28
	%	達成率	97	100	
成果指標	単位				
歯周病（義歯）検診 受診率 (歯周病（義歯）検診受診 者/地域集団検診受診 者)		実績	28	27	
		目標	50	50	50
	%	達成率	56	54	

3. 事業の分析「Check（評価）」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	地域集団健診の受診者も年々減少傾向のなか概ね達成できた。
官民連携の 可能性	方法	<説明>
	市が実施する 必要がある	口腔歯科保健推進に関する施策の実施について、「歯科口腔保健の推進に関する法律」及び「長野県歯科保健推進条例」において、市の責務が明記されている。また、「歯周病（義歯）検診」は、健康増進法に基づく健康増進事業として積極的に実施することが通達されていることから、市の関与が必要である。
事業の 課題	・小中学校のフッ素洗口の実施は、令和2年度新型コロナウイルスから全校で中止している状況であったが、令和5年度中に全ての小中学校で再開実施となった。今後も関係機関と協力し継続していく必要がある。 ・歯周病検診の受診者は、地域集団健診の受診者も減少傾向であることもあり年々減少している。	

4. 今後の方向性「Action（改善）」

所管課等としての評価

事業の 方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ～ 令和 年度
今後の 取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> ・小中学校・保育園・幼稚園の歯科健康診査を通じ、歯科疾患の早期発見・早期治療を進める。また、関係機関と協力し今後もフッ素洗口を実施していく。 ・歯周病（義歯）検診については、地域集団健診会場で受診勧奨を今後も行う。また、歯周病予防の重要性、口腔ケアや口腔機能維持・向上についての啓発活動を行い、かかりつけ歯科の重要性を啓発する。		

令和 6 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 5 年度実施事業)

事業名	サングリモ中込管理運営事業				事務事業コード	4112-6
担 当	市民健康 部	健康づくり推進 課	口腔歯科保健 係	事業開始年度	平成 20 年度	
事業の性質	任意の自治事務(不定型)		法定根拠	佐久市複合型公共施設サングリモ中込条例		
管理方法	通常			建築基準法、消防法等		
実施方法	☒ 市が直接実施 ☐ 委託または指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他 ()					

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり
	節	1.生涯にわたる健康づくりの推進
	施策	1.健康増進
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 複合型公共施設サングリモ中込を、市民のみなさんが安全に安心して利用し、世代を超えた交流をとおりて地域の活性化が図られている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること サングリモ中込1階、2階施設管理 ・管理施設 中込交流センター(商工振興課所管)・シルバーサロン(高齢者福祉課所管)・中込共同作業センター(福祉課所管)・つどいの広場交流センター(子育て支援課所管)・サングリモ中込図書館(中央図書館所管)・口腔歯科保健センター(健康づくり推進課所管)、駐車場、駐輪場、共有スペースの管理を行う。 ・管理体制 管理人を常時1名配置し、12月31日から1月3日の夜間を除いた午前8時から午後10時まで管理している。(令和5年度からは、夜7時以降の施設使用の予約がない場合は午後8時までの勤務とする。) 施設管理人はシルバー人材センターに委託している。 なお、管理人が常駐していない時間帯は、警備業者へ管理を委託している。 ・光熱水費等維持管理費及び修繕等について それぞれの施設を所管する課で対応する。 設備機器等の保守点検業務については、専門業者等により実施。契約等の事務手続きは健康づくり推進課で行う。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
コスト	事業費	10,001		9,717		10,624	
	人件費	0.52 人	3,562	0.52 人	3,780	0.52 人	3,780
	非常勤職員等	0 時間	0	0 時間	0	0 時間	0
	人件費合計	3,562		3,780		3,780	
	総事業費	13,563		13,497		14,404	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	415		573		227	
	一般財源	13,148		12,924		14,177	
	財源合計	13,563		13,497		14,404	

令和 5 年度 実施内容	年間をとおし、午前8時から午後10時15分まで(1・2F施設で夜間の予約のない日や地域のイベントのない場合及び12/31から1/3の午後5時から午後10時を除く)管理人を常時1名配置し、1.2階の公共施設、有料駐車場及び市営住宅以外の駐輪場の施設管理を行っている。 各種設備機器の保守点検業務については専門業者等により実施した。
-----------------	---

活動指標	単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
サングリモ中込 開館日数		実績	365	365	
		目標	365	365	365
	%	達成率	100	100	
成果指標	単位				
サングリモ中込各施設の利用者数		実績	43,437	48,467	
		目標	54,000	54,000	54,000
	%	達成率	80	90	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	各施設利用者は、新型コロナウイルスが5類に移行後徐々に増えてきていると思われる。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	市の多種多様な事業を実施する施設が集まっている複合施設であることから、当面の管理運営は市の関与が必要である。
事業の課題	複合施設の1.2F、有料駐車場、市営住宅以外の駐輪場の管理業務であるが、建築から15年が経過し各施設の修繕が発生してきている。管理も複雑であり、一つの建物としての管理体制が必要ではないかと思う。 建物の保守点検などの経費については入れなどで圧縮を図ってきた。 必要な修繕については、各施設や市営住宅の方が安心安全に過ごせるよう関係各課へ相談し進めているが苦慮している。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度	～	令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> 建築から15年が経過し各施設の修繕が発生してきている。点検などの結果は関係課と共有する。				

令和 6 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 5 年度実施事業)

事業名	臼田健康教育事業				事務事業コード	4112-7
担 当	総務 部	臼田支所 課	健康づくり推進係 係	事業開始年度	平成 17 年度	
事業の性質	義務的自治事務(不定型)		法定根拠	健康増進法・国民健康保険法第82条		
管理方法	通常			高齢者の医療に関する法律		
実施方法	☒ 市が直接実施 ☐ 委託または指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他 ()					

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり
	節	1.生涯にわたる健康づくりの推進
	施策	2.保健活動
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 健診受診者本人が、自分の健診結果を正しく受け止め、運動・栄養に対する理解を深めることにより健康が維持増進されている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ・地域集団健康診査の「結果報告会」を6回/年開催する。 (当初7回の予定であったが大雪警報のため1回中止となった。) ・参加者(特定保健指導者・重症化予防対象者・栄養指導必要者・希望者等)を対象に個別指導を実施する。 ・結果報告会に参加できなかった方に対し、必要に応じ支所や訪問などで保健指導を行う。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
コスト	事業費	54		40		35	
	人件費	0.57 人	3,905	0.57 人	4,144	0.57 人	4,144
	非常勤職員等	292 時間	388	180 時間	239	180 時間	239
	人件費合計	4,293		4,383		4,383	
	総事業費	4,347		4,423		4,418	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	0		0		0	
	一般財源	4,347		4,423		4,418	
	財源合計	4,347		4,423		4,418	

令和 5 年度 実施内容	地域集団健診受診者のうち特定保健指導・重症化予防・栄養指導, 参加希望者を対象に実施した。集団指導は実施せず、時間指定をした個別相談を行った。				
-----------------	---	--	--	--	--

活動指標	単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
結果報告会開催数	回	実績	6	6	
		目標	10	6	7
	%	達成率	60	100	
成果指標	単位				
結果報告会参加率	人	実績	51	114	
		目標	100	50	100
	%	達成率	51	228	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	達成	臼田地区管轄のあいとびあ臼田の地域集団健診の日数が8日から7日に変更になり、報告会も7日間予定していたが、大雪の影響で1日中止し6回の実施となった。中止した日の対象者は支所への来所などで個別指導を実施した。報告会参加者は51名から114名と大幅に増加した。参加者の内訳は栄養指導対象者が52人増加していた。健診当日の事後指導で栄養指導についても重点を置いたことで参加率アップにつながった。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	健診結果に基づき個別指導を実施することは、市民の健康管理や生活習慣病予防のための意識付けとなり、さらに市全体の健康長寿のまちづくりへとつながっていくと思われる。引き続き市が実施しながらも、より有効な支援方法がないか、また、病院などの社会資源が活用できないか検討していく必要がある。
事業の課題	- 対象者の高齢化や、生活習慣病予備軍の増加が見込まれるため、サービス量の見直しが必要である。 - 生活習慣病予備軍や、重症化予防への取り組みについて医療機関との連携が求められる。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ~ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載>		
	- 青年期～壮年期の市民を対象とした「健康教育」の内容を検討し、若いうちから生活習慣の見直しと健康意識の向上をはかる。 - 医療機関との連携により、生活習慣病予防、重症化予防の取り組みを行う。		

令和 6 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 5 年度実施事業)

事業名	臼田ぴんころ運動推進事業			事務事業コード	4112-8
担 当	総務 部	臼田支所 課	健康づくり推進 係	事業開始年度	平成 17 年度
事業の性質	義務的自治事務(不定型)		法定根拠	高齢者の医療の確保に関する法律	
管理方法	通常			健康増進法	
実施方法	☒ 市が直接実施 ☐ 委託または指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり
	節	1.生涯にわたる健康づくりの推進
	施策	1.健康増進
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること ぴんころ運動の普及により、生活習慣病の予防と健康増進に対する意識付けがされ、市民の健康長寿に結びついている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ・各地区において、生活習慣病予防の啓発事業(ぴんころステーション・ピンピン講座・ぴんころ食の普及)を実施する。 ・臼田地区で「ピンピン講座」を年1回開催する。 健康長寿を目的に「栄養・運動・休養」の中からテーマを選び、講演会等を実施する。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
コスト	事業費	0		0		0	
	人件費						
	常勤職員	0.18 人	1,233	0.18 人	1,309	0.18 人	1,309
	非常勤職員等	0 時間	0	50 時間	67	50 時間	67
	人件費合計	1,233		1,376		1,376	
	総事業費	1,233		1,376		1,376	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	0		0		0	
	一般財源	1,233		1,376		1,376	
	財源合計	1,233		1,376		1,376	

令和 5 年度 実施内容	子育て世代の若い母親が「自分や家族の健康」について考えることを目的に「ピンピン講座」を開催した。 1日時 令和5年9月22日(金)9時30分～11時 2場所 あいとびあ田 3テーマ 「赤ちゃんと出来るママの健康体操」 4講師 理学療法士 梅香 育恵先生 5内容 親子で出来る健康体操、ミニ栄養講話(栄養士)、RDテストと歯周病と全身疾患の関係について(歯科衛生士)、血圧測定・個別相談(保健師等)
-----------------	---

活動指標	単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
ピンピン講座 開催回数	回	実績	1	1	
		目標	1	1	1
	%	達成率	100	100	
成果指標	単位				
ピンピン講座 参加人数	人	実績	31	26	
		目標	30	30	30
	%	達成率	103	86.7	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	・達成率100%には至らなかったが、内容が対象者の興味をひき、概ね目標を達成することが出来た。 ・若い世代の母親が、自分や家族の健康について考え、運動や食生活を見直す機会となった。 ・開催後のアンケートで、全ての参加者から「講座で学んだことは日常生活に取り入れられそう」の回答が得られ、母親自身が生活や健康に目を向ける機会になった。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	市民の健康づくりに関しては市が関与し、指導していく必要がある。
事業の課題	・若い世代から、「自分の体」や「健康」に関心が持てるよう推進していく必要がある。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ～ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> ・子育て中の母親が「健康」の知識を深め実践する事は、家族や子供の健康にも繋がる。 参加者が「参加しやすい日程」、「関心あるテーマ」を検討し、市民のニーズに合った事業とする。		

令和 6 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 5 年度実施事業)

事業名	浅科健康教育事業			事務事業コード	4112-9
担 当	総務 部	浅科支所 課	健康づくり推進 係	事業開始年度	平成 17 年度
事業の性質	義務的自治事務(不定型)		法定根拠	健康増進法・老人保健法	
管理方法	通常			高齢者の医療確保に関する法律	
実施方法	☒ 市が直接実施 ☐ 委託または指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり
	節	1.生涯にわたる健康づくりの推進
	施策	1.健康増進
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 健康教育が正しく実施され、市民が健診を正しく理解することにより、健康の増進が図られている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ・地域集団健診の結果報告会の際に、健康教育及び生活習慣病予防等の保健指導を行う。 ・結果報告会に参加できなかった方に対しては、必要に応じて訪問や来所等により保健指導を実施する。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
コスト	事業費	60		10		10	
	人件費						
	常勤職員	0.31 人	2,124	0.31 人	2,254	0.31 人	2,254
	非常勤職員等	30 時間	40	30 時間	40	30 時間	40
	人件費合計	2,164		2,294		2,294	
	総事業費	2,224		2,304		2,304	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	0		0		0	
	一般財源	2,224		2,304		2,304	
	財源合計	2,224		2,304		2,304	

令和 5 年度 実施内容	結果報告会は参集範囲を保健指導対象者に絞って実施した。 集団指導は中止し、参集対象者以外は郵送で結果を返却した。 健診結果に応じてチラシを同封し情報提供を行った。 健診結果を受け、面談による特定保健指導や糖尿病性腎症重症化予防プログラムを実施した。 電話による精密検査受診勧奨を実施した。
-----------------	--

活動指標	単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
健診結果報告会	回	実績	3	3	
		目標	3	3	3
	%	達成率	100	100	
成果指標	単位				
健診結果報告会 参加者数	人	実績	37	28	
		目標	60	60	50
	%	達成率	61.7	46.7	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	結果報告会は、参集対象を生活習慣の改善が必要なハイリスクアプローチ該当者に絞って実施した。 該当者の中で、報告会欠席者へは健診結果を郵送せず、別日程で個別対応にて保健指導を行いながら結果を返却し対応した。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	健診後の事後指導を行い、市民の健康管理や生活習慣病予防を行う事は、健康長寿のまちづくりに必要であり、個人情報の取り扱い、プライバシー保護の観点からも市が関与する必要がある。
事業の課題	市民の高齢化及び医療費の増加傾向がみられる中、医療機関との連携を図るとともに、生活習慣病予備軍等に対する個別指導及び重症化予防への取り組みが重要である。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ~ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> 結果報告会の実施については、今後も参集対象者を絞り、ハイリスクアプローチに重点をおき実施していく。 ハイリスク対象者以外は、ポピュレーションアプローチとして、健診の事後指導時に、健康増進について情報提供をする。 医療機関との連携により、生活習慣病予防に加え、重症化予防への取り組みを行う。		

令和 6 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 5 年度実施事業)

事業名	浅科ぴんころ運動推進事業			事務事業コード	4112-10
担 当	総務 部	浅科支所 課	健康づくり推進 係	事業開始年度	平成 17 年度
事業の性質	義務的自治事務(不定型)		法定根拠	高齢者の医療の確保に関する法律	
管理方法	通常			健康増進法	
実施方法	☒ 市が直接実施 ☐ 委託または指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり
	節	1.生涯にわたる健康づくりの推進
	施策	1.健康増進
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること ぴんころ運動の普及により、生活習慣病を予防し、健康長寿で暮らせている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること 生活習慣病を予防し、食育や運動の推進とともに市民の健康増進を図るために、啓発事業である「ぴんころステーション」「ピンピン講座」「ぴんころ食の普及」を行う。 「ピンピン講座」は、健康運動体操やウォーキングなどを取り入れ、生活の中で体を動かすことの大切さを学ぶ場として、浅科地区と望月地区を隔年ごとに会場を変更して開催する。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
コスト	事業費	0		0		0	
	人件費	0.07 人 480		0.07 人 509		0.07 人 509	
	非常勤職員等	0 時間 0		0 時間 0		0 時間 0	
	人件費合計	480		509		509	
	総事業費	480		509		509	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	0		0		0	
	一般財源	480		509		509	
	財源合計	480		509		509	

令和 5 年度 実施内容	望月支所と浅科支所合同で「ピンピン講座」として「インターバル速歩」を浅科地区（浅科支所担当）にて6月8日に開催。参加者は30名であった。
-----------------	--

活動指標	単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
ピンピン講座開催回数	回	実績	1	1	
		目標	1	1	1
	%	達成率	100	100	
成果指標	単位				
ピンピン講座参加人数	人	実績	12	30	
		目標	30	30	30
	%	達成率	40	100	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	新型コロナウイルス感染症5類移行後の開催となり、市内各地から参加者が集まり目標人数に達する参加人数で実施することができた。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	市民の健康づくりに関しては市が関与し、責任を持って指導していく必要がある。
事業の課題	講座は、常に市民のニーズと社会情勢にあった内容を取り入れ、幅広い年齢層の方が参加できるよう、地域や参加年齢に即した内容等を検討していく必要がある。望月・浅科地区は一年交代でピンピン講座を開催しているが、地域の人が身近で参加しやすいように、それぞれの地域ごとに開催月及び開催日時を見直していく必要がある。 保健補導員等の地区組織との連携を深め生活習慣病の予防を主とした生活習慣の改善が市民に問い入れられるよう普及啓発を行う。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ～ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> 保健補導員等の地区組織との連携を深め、生活習慣病の予防を主とした生活習慣の改善が市民に取り入れられるよう、普及啓発を行う。 市民が参加しやすいよう、ニーズに合わせた内容や開催時期の検討をしていく。		

令和 6 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 5 年度実施事業)

事業名	望月健康教育事業			事務事業コード	4112-11
担 当	総務 部	望月支所 課	健康づくり推進 係	事業開始年度	平成 17 年度
事業の性質	義務的自治事務(不定型)		法定根拠	健康増進法・老人保健法	
管理方法	通常			高齢者の医療確保に関する法律	
実施方法	☒ 市が直接実施 ☐ 委託または指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり
	節	1.生涯にわたる健康づくりの推進
	施策	1.健康増進
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 健診受診者本人が健康診断結果を正しく理解し、その上で健康・運動・栄養等への理解を深め、健康が維持増進されている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ・基本健診の結果報告会時に健康教育及び生活習慣予防などの保健指導を行う。 ・結果報告会に参加できなかった方に対し、必要に応じて訪問や窓口での保健指導を行う。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
コスト	事業費	12		12		12	
	人件費	0.39 人	2,672	0.39 人	2,835	0.39 人	2,835
	非常勤職員等	350 時間	466	330 時間	439	330 時間	439
	人件費合計	3,138		3,274		3,274	
	総事業費	3,150		3,286		3,286	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	0		0		0	
	一般財源	3,150		3,286		3,286	
	財源合計	3,150		3,286		3,286	

令和 5 年度 実施内容	・報告会は生活習慣の改善が必要な対象者(特保・重症化・栄養)に実施。当日の欠席者には、結果に合わせた内容のチラシを同封し郵送にて対応。 ・健診の事後指導においては、個別で年齢に合わせたチラシを配布し、栄養・運動・フレイル予防等の情報提供を実施。				
-----------------	---	--	--	--	--

活動指標	単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
結果報告会	回	実績	5	4	
		目標	5	4	3
	%	達成率	100	100	
成果指標	単位				
結果報告会参加者数	人	実績	40	48	
		目標	60	80	70
	%	達成率	66.7	60	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	・生活習慣の改善が必要な対象者(特保・重症化・栄養)に実施した。当日の欠席者には、後日来所または訪問により個別指導を実施。 ・精密検査対象者には、結果郵送後、電話にて受診方法、結果説明を実施。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	・個人の健康状況や個人情報を扱って保健指導を行うためプライバシーの観点から、市が関与する必要がある。
事業の課題	・市民の高齢化や生活習慣病の予備軍の増加が見込まれるため、サービス量や内容の見直しが必要である。 ・佐久市は地域が広く地域性にも特徴があるため生活習慣病の個別指導等を各地で実施する必要がある。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ~ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> 感染症等の予防に留意し、健診当日の事後指導を充実させ、市民の生活習慣病予防や健康の維持・増進に対する意識の向上を図る。 結果報告会の個別指導により、青年期から壮年期の市民を中心に、食事や身体活動・運動に対する意識の向上を図る。 医療機関との連携により、生活習慣病予防に加え、重症化予防への取り組みを行う。		

令和 6 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 5 年度実施事業)

事業名	望月ぴんころ運動推進事業				事務事業コード	4112-12
担 当	総務 部	望月支所 課	健康づくり推進 係	事業開始年度	平成 17 年度	
事業の性質	任意の自治事務(不定型)		法定根拠	高齢者の医療の確保に関する法律		
管理方法	通常			健康増進法		
実施方法	☒ 市が直接実施 ☐ 委託または指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他 ()					

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり
	節	1.生涯にわたる健康づくりの推進
	施策	1.健康増進
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること ぴんころ運動の普及により、生活習慣病予防と健康増進に対する意識付けがされ、市民の健康長寿に結びつけている。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ・各地区において、生活習慣病予防の啓発事業(ぴんころステーション・ピンピン講座・ぴんころ食の普及)を実施する。 ・ピンピン講座は健康運動体操やウォーキングなどを取り入れ、生活の中で体を動かすことの大切さを学ぶ場として望月地区と浅科地区を隔年ごとに会場を移し開催している。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
コスト	事業費	0		0		0	
	人件費	0.09 人		0.09 人		0.09 人	
	常勤職員	617		654		654	
	非常勤職員等	6 時間		4 時間		4 時間	
	人件費合計	625		659		659	
総事業費		625		659		659	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	0		0		0	
	一般財源	625		659		659	
	財源合計	625		659		659	

令和 5 年度 実施内容	望月支所と浅科支所合同で、ぴんころ運動推進事業の一環としての「ピンピン講座」を6月8日に浅科支所が主担当で浅科穂の香ホールにて実施。インターバル速歩・健康測定等を行い参加者は30名であった。
-----------------	---

活動指標	単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
ピンピン講座開催回数	回	実績	1	1	
		目標	1	1	1
	%	達成率	100	100	
成果指標	単位				
ピンピン講座参加人数	人	実績	23	30	
		目標	30	30	30
	%	達成率	77	100	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	達成	新型コロナウイルス感染症等の予防に留意し、感染症対策を講じ予定通り実施できた。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	市民の健康づくりに関しては市が関与し、責任を持って指導していく必要がある。
事業の課題	・望月・浅科地区は一年交代でピンピン講座を開催しているが、地域の人が身近で参加しやすいように、それぞれの地域ごとに開催月及び開催日時を見直していく必要がある。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度	～	令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> 望月・浅科地区は一年交代でピンピン講座を開催しているが、地域の人が身近で参加しやすいように、それぞれの地域ごとに開催月及び開催日時を見直していく必要がある。 保健補導員等の地区組織との連携を深め生活習慣病の予防を主とした生活習慣の改善が市民に取り入れられるよう普及啓発を行う。 市民が参加しやすいよう、内容や開催時期等を検討していく。				

令和 6 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 5 年度実施事業)

事業名	ヘルスアップ推進事業				事務事業コード	4112-13
担 当	市民健康 部	健康づくり推進 課	健康増進 係	事業開始年度	平成 24 年度	
事業の性質	任意の自治事務(不定型)		法定根拠	高齢者の医療の確保に関する法律		
管理方法	通常			健康増進法		
実施方法	☒ 市が直接実施 ☐ 委託または指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他 ()					

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり
	節	1.生涯にわたる健康づくりの推進
	施策	1.健康増進
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 市民が自らの健康のため、自主的に運動に取り組むとともに、食生活などに気を配ることで、高齢となっても健康を維持することができる。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること 【地区ウォーキングステーション】 地域で保健活動を担う保健補導員にウォーキングを学んでいただくとともに、地区への普及も図る。 ・保健補導員会ブロック研修会(14ブロック)でウォーキングの基礎講習を実施 内容:「健康づくりのための正しいウォーキング」 ・保健補導員の地区自主活動にて、各地域でウォーキングを実施 ・ウォーキングマップを利用、普及を図る。 【佐久市プラステン活動・ベジファースト活動・運動マイプラン活動】 ・佐久市プラステン活動(今より10分多く体を動かそう)、ベジファースト活動(野菜から先に食べよう)、運動マイプラン活動(自分で計画を立てて運動しよう)をスローガンとし、その普及を図る。 ・地域集団健診結果報告会時や特定保健指導時に、説明、実践に向け対象者と共に計画する。 ※R4年度から国保医療課「高齢者と介護予防の一体的実施事業」へ予算組み替えのため按分により算出	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
コスト	事業費	50		70		0	
	人件費	1.15 人		0.95 人		0.00 人	
	常勤職員	7,878		6,907		0	
	非常勤職員等	200 時間		100 時間		0 時間	
	人件費合計	8,144		7,040		0	
総事業費		8,194		7,110		0	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	0		0		0	
	一般財源	8,194		7,110		0	
	財源合計	8,194		7,110		0	

令和 5 年度 実施内容	・地区ウォーキングステーションとして、保健補導員会ブロック研修会14回、ブロック別研修会2回、地区自主活動5回、ピン・ピン講座2回（インターバル速歩）実施。 ・特定保健指導や地域集団健診結果報告会における個別指導時、各々の状態に合わせて対象者主体で食事や運動の行動計画を作成。 ・市内公営施設一覧、市内の運動実施場所・実施団体、およびウォーキングマップを掲載したチラシを作成し、市ホームページに掲載。併せて保健指導時やイベント等で配布、情報提供を行った。				
-----------------	---	--	--	--	--

活動指標	単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
ウォーキングステーションの実施回数	回	実績	15	23	
		目標	18	22	-
	%	達成率	83.3	104.5	
成果指標	単位				
参加者延べ数	人	実績	406	550	
		目標	450	450	-
	%	達成率	90.2	122.2	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	達成	新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことから、保健補導員会の活動が活発になり、参加者の増加につながった。 ピン・ピン講座では話題性のある「インターバル速歩」を取り入れたところ、定員を満たす申し込みがあり、以上のことから、目標の達成につながった。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	地区ウォーキングステーションは、市内各地区で実施できるよう、保健補導員会活動の場を主軸として展開しているため、市での実施が望ましいと考える。
事業の課題	・地区ウォーキングステーションは若い年齢層の参加者が少ないため、30代～40代の若い年齢層や男性も含め、多世代に広がっていくようアプローチ方法を検討する必要がある。 ・身体活動が不足している人たちへ向け、身体活動を増やす手段として、主に身近にできるウォーキングの普及を推進していく必要がある。 ・将来は、市民の自主的な活動につなげていくために、具体的な実施方法などの情報提供等を行い、状況に応じて市の関与を小さくし、市主体から市民主体の活動としていくことが望ましい。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	廃止	期間・時期	令和 5 年度	～ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> 令和4年度からヘルスアップ推進事業の事業費は高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施へと移行しており0となっている。事業内容のうち、地区ウォーキングステーションは、主に保健補導員会活動や、ピン・ピン講座（びんころ運動推進事業）として実施している。 現在のコストはウォーキングマップ等のための消耗品と常勤職員の人件費のみであるため、ヘルスアップ事業は令和5年度で廃止とし、令和6年度より、ウォーキング普及に関する内容は「びんころ運動推進事業」へ、佐久市プラステン活動、ベジファースト活動、運動マイブラン活動等の健康増進に関する内容は「健康教育事業」に統合して実施していく。			

令和 6 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 5 年度実施事業)

事業名	健康教育事業			事務事業コード	4112-14
担 当	市民健康 部	健康づくり推進 課	健康増進 係	事業開始年度	平成 17 年度
事業の性質	義務的自治事務(不定型)	法定根拠	健康増進法・老人保健法・国民健康保険法第82条		
管理方法	通常		高齢者の医療確保に関する法律		
実施方法	☒ 市が直接実施 ☐ 委託または指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他 ()				

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり
	節	1.生涯にわたる健康づくりの推進
	施策	1.健康増進
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 健(検)診を受け、自身の健康状態を把握し、適切な生活習慣を継続、または生活習慣の改善を図ることができる。精密検査が必要な項目については、医療機関を受診し、症状の早期改善につなげる。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること 1 ポピュレーションアプローチ ・「健康相談・出前講座」による健康知識の普及啓発 ・生活習慣病重症化予防講演会 ・健診の受診勧奨 ・健診結果返却時に生活習慣病予防等知識の普及啓発 2 ハイリスクアプローチ ・特定保健指導 ・精密検査受診勧奨 ・佐久地域糖尿病性腎症重症化予防プログラムの実施 3 その他 ・保健指導に携わるスタッフの力量形成のための研修等	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
コスト	事業費	122		140		143	
	人件費	2.50 人		2.60 人		2.65 人	
	非常勤職員等	2794 時間		2790 時間		3490 時間	
	人件費合計	20,728		22,597		24,110	
	総事業費	20,850		22,737		24,253	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	0		0		0	
	一般財源	20,850		22,737		24,253	
	財源合計	20,850		22,737		24,253	

令和 5 年度 実施内容	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、結果報告会は参集範囲を保健指導対象者に絞って実施。集団指導は中止し、参集対象者以外は郵送で結果返却。 ・ポピュレーション講演会を開催し、整形外科医による生活習慣病予防のための講話を行った。 ・慢性腎臓病のハイリスク者に対して、腎専門医による生活習慣病重症化予防講演会を実施し、希望者には医師、保健師、栄養士による個別相談を行った。 ・健診結果を受け、面談による特定保健指導や糖尿病性腎症重症化予防プログラムを実施。 ・電話による精密検査受診勧奨を実施。
-----------------	---

活動指標	単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
結果報告会の開催数	回	実績	29	28	
		目標	30	28	27
	%	達成率	97	100	
成果指標	単位				
結果報告会の参加率	%	実績	48	66	
		目標	60	60	70
	%	達成率	80	110	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	概ね達成	結果報告会は参集対象をハイリスクアプローチ該当者に絞り実施。参加率は66%であった。 欠席者へは郵送とせず、別日に個別対応にて保健指導を行いながら結果を返却することを基本とした。 特定保健指導実施率は前年より減少した。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	市が実施する必要がある	市民の健康づくりのためには、保健指導を市直営で実施することで市全体の健康課題を把握しやすく、健康課題に直接的に働きかけることができると考えられる。 また、日頃の市民との信頼関係のもと、実施可能となる状況も考えられるため、市が実施する必要がある。
事業の課題		・ハイリスクアプローチの特定保健指導は健診受診から始まる支援(事業)であるため、健診受診率の向上が重要課題となる。そのためには、ポピュレーションアプローチを強化し、出前講座や講演会等で、健診の重要性を周知することが必要である。

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	現行どおり	期間・時期	令和 年度 ~ 令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> ・健診の事後指導や出前講座等で、健康増進についての情報提供を行うとともに、健診受診の重要性を周知していく。 ・結果報告会について、効果的に保健指導を実施するため、今後も参集対象者を生活習慣病のリスクが高い方を中心に実施していく。 ・佐久地域糖尿病性腎症重症化予防プログラムについて、引き続き糖尿病未受診者への受診勧奨を重点的に行い、ハイリスク者については医療機関との連携をとりながら実施する。 ・保健指導に携わるスタッフ向けの研修会を行い、スタッフの知識向上や保健指導力の強化を図る。		

令和 6 年度 事務事業評価シート (評価対象 令和 5 年度実施事業)

事業名	健康長寿ブランド化推進事業				事務事業コード	4112-15
担 当	市民健康 部	健康づくり推進 課	保健医療政策 係	事業開始年度	平成 28 年度	
事業の性質	任意の自治事務(不定型)		法定根拠			
管理方法	通常					
実施方法	☒ 市が直接実施 ☒ 委託または指定管理 ☒ 補助金・負担金 ☐ その他 (					

1. 事業概要「Plan(計画)」

総合計画上の位置付け	章	4.豊かな暮らしを育む健康長寿のまちづくり
	節	1.生涯にわたる健康づくりの推進
	施策	1.健康増進
目的・成果	※わかりやすく簡潔に記載すること 海外視察の受入れを中心とした国際展開と健康長寿のブランド構築 足育による健康づくり活動の推進により健康寿命の延伸が図られ佐久市が先進的モデルとなる。	
事業内容 (手段・方法など)	※活動内容や提供するサービスについて簡潔に記載すること ○佐久市の強みである「健康長寿」事業の展開 ・健康長寿を国外に発信するため保健医療分野において、海外からの視察研修の受入れを行うとともに体制の充実に取り組む。 ・将来にわたり佐久市が健康長寿のまちであり続けるために、日常生活動作において重要な機能である歩行を通じた健康づくり「足育」を産官連携し推進。	

2. 実施結果「Do(実施)」

単位(千円)

※事業実施年度までは決算、実施年度の翌年度は予算		令和 4 年度		令和 5 年度		令和 6 年度	
コスト	事業費	1,363		670		1,069	
	人件費	1.00 人	6,850	1.00 人	7,270	1.00 人	7,270
	非常勤職員等	0 時間	0	0 時間	0	0 時間	0
	人件費合計	6,850		7,270		7,270	
	総事業費	8,213		7,940		8,339	
財源内訳	特定財源(国・県支出金等)	1,086		534		610	
	一般財源	7,127		7,406		7,729	
	財源合計	8,213		7,940		8,339	

令和 5 年度 実施内容	・海外視察受入 7件（うちWEB視察1件） ・足トラブルへの足育対策システム検証調査業務の結果を反映させ、市内小中学校を対象に、歩行計測、足裏計測を地元企業と協働実施し、足育事業を推進。（実施内訳：小学校10校） ・国保医療課で実施していた「歩教室」を当課へ所管替えし、現在の事業に統合して姿勢計測を実施。（実施内訳：小学校9校） ・「足」と「食」について、親子で学ぶ教室を年2回開催。				
-----------------	--	--	--	--	--

活動指標	単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
「歩行」に係る健康増進調査(事業)の実施	回	実績	11	11	
		目標	8	11	11
	%	達成率	137.5	100	
成果指標	単位				
海外視察受入人数の増加	人	実績	50	62	
		目標	1	50	50
	%	達成率	5,000	124	

3. 事業の分析「Check(評価)」

達成状況	達成度	<説明>
	達成	・入国緩和による海外視察の要請が再開したことにより、目標を達成できた。 ・足育推進については、足育リーフレットを作成し、小学校やイベントを通じて配布しPRを行った。また親子で足や食を通じて学ぶ教室を開催したことにより、足育の推進を実施した。
官民連携の可能性	方法	<説明>
	民間による実施が可能	海外視察の受入れについては、市を介さずとも希望する機関施設への依頼及び対応が可能である。（市への依頼は市が対応する） 足育事業については、関係機関との連携が必要なため、民間と市が協働し実施していく。
事業の課題	・保健医療のつばさ事業の受け入れ窓口を市から民間への移行について検討する必要がある。	

4. 今後の方向性「Action(改善)」

所管課等としての評価

事業の方向性	手法等の見直し	期間・時期	令和 年度	～	令和 年度
今後の取組方針	<課題に対する解決策、取組み方針等を記載> ・海外視察の受入れについては、民間への移行を関係機関と検討する。 ・足育については、産官学連携により成人を対象にした事業や市内小中学校等において歩行計測や出張足育教室等を行う。				